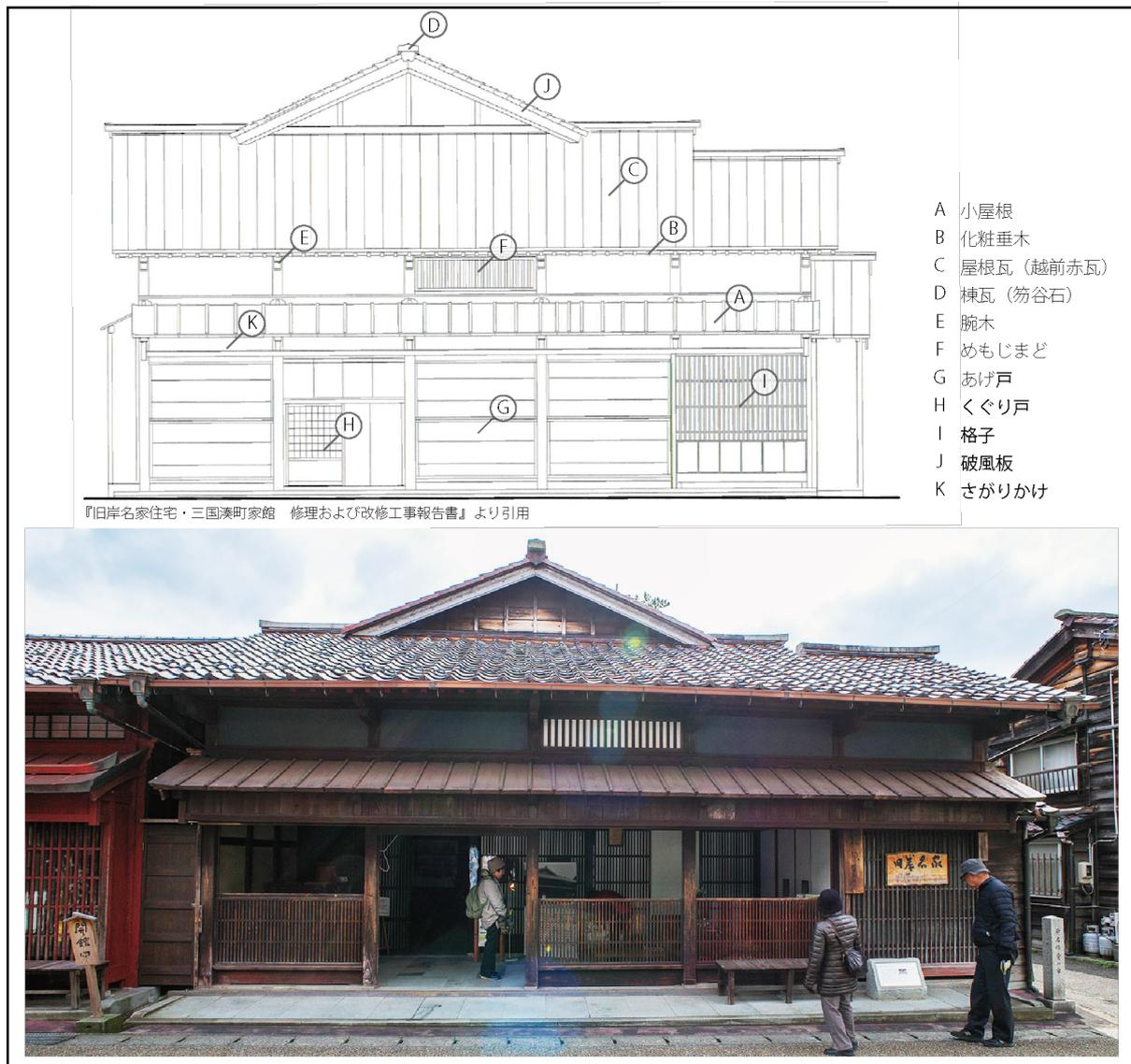


## 2章 三国湊地区の町家と町並みの特徴

### 1. 三国湊地区の町家の特徴

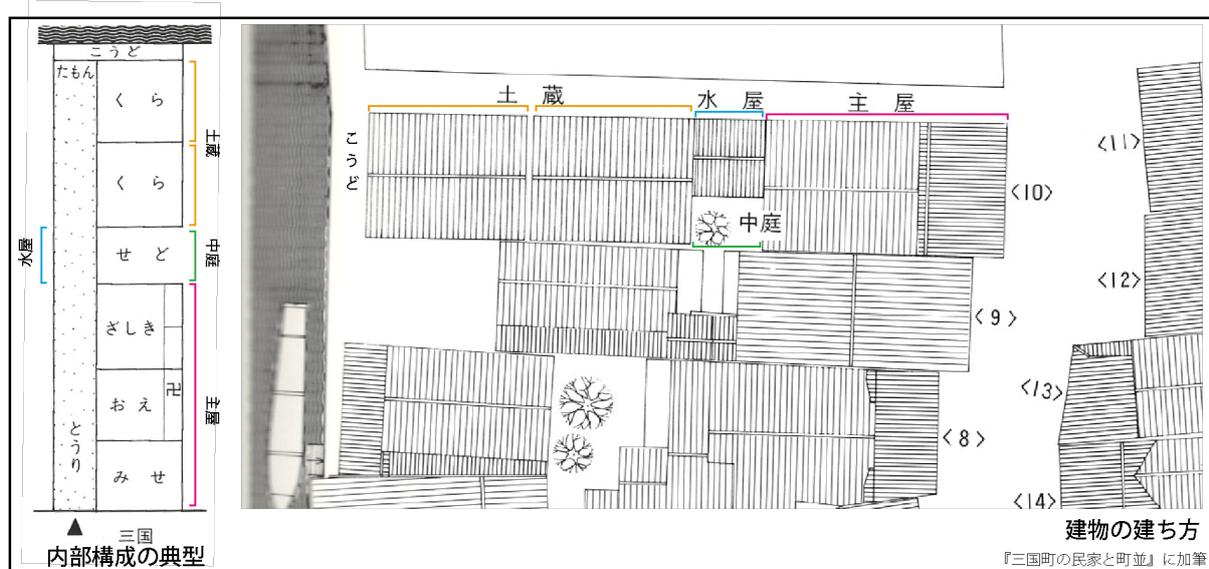
三国湊の町家には「かぐら建て」と呼ばれる三国湊独自の形式がみられます。かぐら建ての屋根形状はかぐら建ての屋根形状は妻入の前面に平入の前半分をつけたような形をしています。かぐら建てだけではなく、他の地域で通常みられる平入や妻入の形状の町家も多く建てられています。

下図はきたまえ通りで復元修理されたかぐら建ての「旧岸名家」の立面図です。正面の各部には名称があり、様々な要素で構成されていることが分かります。このほかの要素も合わせて、ここでは三国湊の町家の特徴を要素ごとに解説していきます。



## 1) 敷地の構成

三国湊の敷地内は主屋の裏に中庭（セド）をとり、その奥にある土蔵を水屋でつなぐ建物の構成になっています。また室内は表通りから裏までは「トウリ」で結び、その横に部屋が並ぶ構成になっています。



① かぐら建てを側面から見る。主屋の後ろに「セド」が続き、土蔵は建替わっている。

## POINT

- ▶ 短冊状の敷地が並ぶ三国湊の町並みでは、採光や通風など環境条件を良くするための合理的な構成になっています。

## 今後の課題

- ▶ 大きく細長い敷地は現代においては敬遠されがちであり、敷地の分割もみられます。敷地構成を守っていくための制度設計が必要です。

## 2) 建物の高さ

元々2階の街路に面する部屋は「ツシ」と呼ばれ、物置として使用されていました。そのため、2階の高さもそれほど必要とされていませんでした①。時代がくんだり、窓ガラスの普及などから、段々と居室として利用されるようになることで2階も高くなっていきます②。

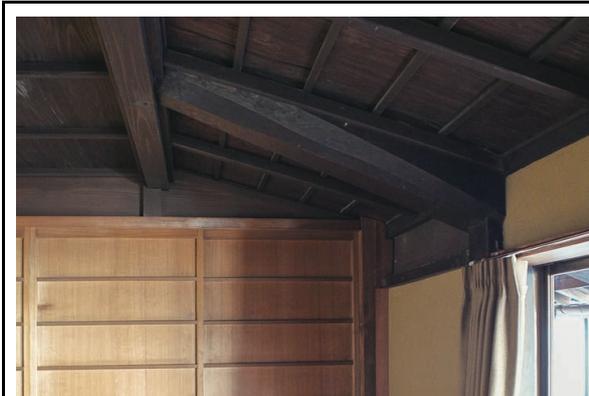


① 2階が低い町家

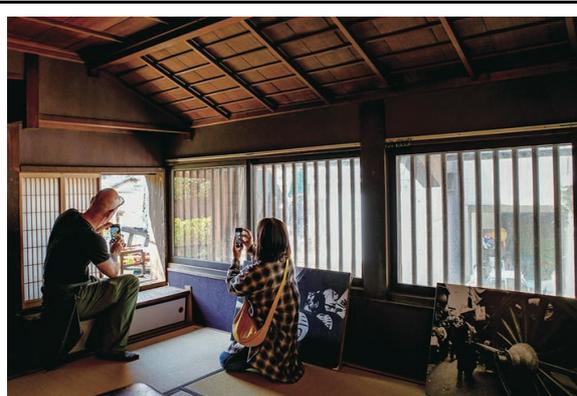


② 2階が居室になり、背も高くなる

街路に面する2階の居室ができたことにより、三国祭を2階から見たり、宴会を行ったりするなどの風習も行われるようになったと考えられます③～④。



③ 室内側の登梁の様子



④ 2階から三国祭を眺める様子

### POINT

▶ もともと2階は「ツシ」と呼ばれ物置として利用されていました。

### 今後の課題

▶ 2階建て以上が建てることのできる中で、3階以上の建物も立っている。高さを抑えるための計画を策定するなどの方策を検討する必要があります。